

令和5年度 岡山県立瀬戸高等学校 学校評価書 別紙

岡山県立瀬戸高等学校

＜評価基準＞ A：目標を上回った B：ほぼ目標どおり C：目標を下回った

学校経営目標	担当	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況	評価	最終達成状況	評価	総合
①授業改革をより一層進め、ICT機器を効果的に活用するとともに、主体的・対話的で深い学びを実践することで、授業が自分事となる学びを実現する。 (尚学)	教務課	<ul style="list-style-type: none"> 校内の授業公開期間に、協調学習やICT機器の活用等により、生徒自らが主体的に学ぶ授業づくりを実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校改善アンケート(生徒対象)の「授業や補習に積極的に取り組んでいますか」の質問項目において肯定的評価が88%以上(前年度88%)、「授業はわかりやすいですか」の質問において肯定的評価が85%以上(前年度85%)になる。 教員の一般的な端末の活用指導力を県内の上位1/3以内にする。(現状、上位1/2に入っていない。) 	<ul style="list-style-type: none"> 6/5～6/23の授業公開週間に授業公開日を設け、授業を見せ合う機会をつくった。(実施率77.7%(非常勤を除く)) 1学期末に授業評価アンケートを実施し、授業への満足度等の現状把握を行った。 授業公開に抵抗感はなくなりつつあるが、授業改善については各教科担当の裁量に任されている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 10/31～11/17の授業公開週間に授業公開日を設け、授業を見せ合う機会をつくった。(実施率86.5%(非常勤を除く)) 学校改善アンケートの「授業や補習に積極的に取り組んでいますか」の肯定的評価は85%、「授業はわかりやすいですか」の肯定的評価は82%であった。 日本教育工学協会(JAET)の「学校情報化優良校」の認定を受ける。 	A	
	進路指導課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自走できるように、授業やひたぶるタイム等、主体的に取り組む活動をとおして、確かな学力と考える力・表現する力を育成できるように計画・立案・運用し、進路保障の一助とする。 実力考査のあり方を1年かけて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の授業時間の中で、生徒の主体的活動が展開される場面を意識的に設ける。 キャリア・デザイン室を中心に、学びを自走させクリエイティブな生徒を育てる授業改革を推進する。 各学期で多様な授業実践を公開し、意見交換を行う。 令和6年度以降に継続される実力テストのあり方を定める。 	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年を中心に、新教育課程に応じた生徒の主体的活動が試みられた。 キャリア・デザイン室によるD☆ラボ、授業改革の研修会や近隣中学校への探究メニュー企画、実施が進められた。中学校への出前授業が好評である。 1学期に授業実践の公開をすすめた。 1年次の11月と2月、2年次の6月11月2月、3年次の11月の実力テストについては、学習指導の焦点化を図り、生徒・教師の学習・授業改善につなげ、確かな学力を付けさせるために廃止した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 中間期と同様に、新教育課程に応じた生徒の主体的活動が試みられた。 Classiの動画学習パックなどを活用して、校外模試対策などを軸に家庭学習の充実を試みた。 キャリア・デザイン室を中心に、学びを自走させクリエイティブな生徒を育てる授業改革を推進することができた。 キャリア・デザイン室により、クリスマスのセト☆フェスの第2部(午後)に外部の社会人・生徒を交えた教員研修を実施した。 2学期にも授業実践の公開をすすめた。 	B	
	1年次	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切に、予習・授業・復習の学習習慣を確立させる。 提出物を必ず提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の振り返りシートによる調査「授業を第一に、予習・復習を徹底的にすることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が70%以上になることを目指す。 学習実態調査の家庭学習時間が1週間平均で3時間確保できることを目指す。 学校改善アンケート「宿題や提出物は期限を守って提出できていますか。」の質問項目において肯定的評価が70%以上になることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の振り返りシートによる調査で、肯定的回答は、85.8%であった。 4月の学習実態調査では、平均113.6分であり、3時間以上は11.3%であった。 宿題の提出に関しては、1学期の振り返りシートによる調査で、60.8%であった。 年次通信や面談等により、学習時間の確保・宿題等の提出を促し、目標を達成したい。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の振り返りシートによる調査で、肯定的回答は、60%であった。 9月の学習実態調査では、平均82分であり、3時間以上は3%であった。 宿題の提出に関しては、2学期の振り返りシートによる調査で、70%であった。 次年度は、進路目標を見定め、学習意欲を高める指導をし、学習時間を確保させたい。 	B	
2年次	<ul style="list-style-type: none"> 授業を第一に、予習・復習など、優先順位を考えて自走できるように工夫する。 Classiの学習記録を利用して学習実態調査を実施し、時間や期限の管理を自分でできるように目標や計画を立てる機会を多く設ける。 進路探究の時間や担任面談等を利用して進路情報を提供し、自分の希望進路について考えるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の振り返りシートによる調査「授業を第一に、予習・復習を徹底的にすることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が75%以上を目指す。(1年3学期 67.8%) 学習実態調査において、1日平均の学習時間180分以上の生徒が25%以上を目指す。(1年2月 17.8%) 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の振り返りシートによる調査で、該当の質問項目において肯定的回答をした生徒は67.9%であった。授業中の学習態度は良いのだが、家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多い。 4月の学習実態調査では、平日・休日合わせた1日平均の学習時間は108分であり、180分以上の生徒は9.5%だった。学習時間が全体的に減少しているため、各個人前日より「+15分」を呼びかけている。全体の平均時間だけでなく、個別の分析を進めたい。また、年次通信や担任面談等を利用して、分かりやすく具体的な目標や学習内容を発信していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の振り返りシートによる調査で、該当の質問項目において肯定的回答をした生徒は70.1%であった。1学期より微増しており、ごくわずかではあるが、学習への意識が向上したと考えられる。「受験生」としての意識をもち、定期考査や校外模試を指標にししながら、学習の時間や質を向上させてほしいと考えている。 9月の学習実態調査では、平日・休日合わせた1日平均の学習時間は132分であった。4月の108分よりは増加したが、集計期間に祝日が入っているためだと考えられて、「前回より+15分」というスローガンを掲げて教室に掲示し、実際の声かけに加 	B		

				えて、Classi上で教員がコメントをするなど、個人への声かけや指導をおこなった。 <ul style="list-style-type: none"> 校外模試の振り返りを実施し、次回の模試に向けて学習計画を立てさせた。面談や進路探究の時間、年次通信を利用して公立大学の紹介をするなど、進路情報の提供を充実させた。2学期の振り返りシートによる調査では、「進路目標を見つけ、プラスαの学習を1つ始めることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答をした生徒が52.5%になった（1学期38.8%）。今後も進路情報の提供や面談のさらなる充実をはかっていきたい。
3 年 次	<ul style="list-style-type: none"> 「予習」→「授業」→「復習」の学習サイクルを維持させ、自分の進路探究のための勉強をさせる。 瀬戸高学びのスタンダードを遵守させる。 課題・提出物を必ず提出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の振り返りシートによる調査「予習→授業→復習の学習サイクルを維持しつつ、自分の進路探究のための勉強ができましたか。」「瀬戸高学びのスタンダードを遵守することができましたか。」「課題・提出物を必ず出すことができましたか。」において、肯定的回答が85%以上になることを目指す。 学習実態調査の家庭学習平均時間が平日4時間、休日6時間確保できることを目指す。 学校改善アンケート「宿題や提出物は期限を守って提出できていますか。」の質問項目において肯定的評価が85%以上になることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期振り返りシート 「予習→授業→復習の学習サイクルを維持しつつ、自分の進路探究のための勉強ができましたか。」肯定的回答89% 「瀬戸高学びのスタンダードを遵守することができましたか。」肯定的回答93% 「課題・提出物を必ず出すことができましたか。」肯定的回答87% 学習実態調査平均時間（4月）平日174分、休日290分 生徒一人一人が、進路探究に積極的に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期振り返りシート 「予習→授業→復習の学習サイクルを維持しつつ、自分の進路探究のための勉強ができましたか。」肯定的回答90% 「瀬戸高学びのスタンダードを遵守することができましたか。」肯定的回答94% 「課題・提出物を必ず出すことができましたか。」肯定的回答91% 学習実態調査平均時間（9月）平日199分、休日300分 生徒が個々の適性に応じた進路実現に向けて努力することができた。

学校経営目標	担当	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況	評価	最終達成状況	評価	総合
②生徒が主体的に行動し、自らの成長を実感できる取組を進め、将来は自立した社会の構成員として活躍する素地となる、より良くなるようとする力の育成を行う。 (自主)	教務課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体のオープンスクールを企画・運営することで、生徒の主体性を養うとともに、生徒による本校の魅力発信に繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体のオープンスクールを継続し、生徒による本校の魅力発信に挑戦する。 オープンスクールの中3生参加者数を300人以上にする。(昨年、中3生OS参加者215名、学校説明会参加者71名) 	<ul style="list-style-type: none"> 一部保護者も交えて、オープンスクールを無事に実施した。生徒会による学校紹介、総探発表、高校生との交流会、部活動見学等、本校生徒の活動を前面に打ち出した内容であった。 本校生徒ものべ46名が参加した。中3生徒参加者314名であった。(申込み人数354名) 9月実施の学校説明会参加者は137名(中学生80名、保護者57名)で、多くの方に瀬戸高校を知ってもらうことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体のオープンスクールや学校説明会を滞りなく行うことができた。これらの行事やブログ等の発信において、コロナ禍でPR不足の感が否めなかった部活動について、今後更に魅力発信を続けていきたい。 	A	
	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会主催の学校行事で、生徒主体の活動を実践するとともに、生徒自身が計画・運営し、全校生徒で行事を盛り上げることができるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 瀬戸高祭アンケートの満足度において、全体的に「よい」の数値で90%前後の満足度を維持する。Chromebookを活用して、アンケートの精度をあげる。 新制服について、生徒会が中心となって、生徒主体でオプションを考える。できるだけ中学生も関われるように取り組みを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 瀬戸高祭のアンケートは、97.8%が「満足」「やや満足」との回答結果であった。回答数も、HRで実施したため、各段に高くなった。(回答数406。)全体的に生徒が主体的に活動し、盛り上がる行事になったと感じている。少数意見にも耳を傾けながら、来年度に向けて、よりよいものを作るべく、検討に着手したい。 令和6年度に向けてのオプション設定は、時間的に間に合わなかった。(6月が目処。)年度内に、中学生との交流会を設定し、その中で、令和7年度に向けての制服オプション追加等について話し合わせ、決めていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 瀬戸高祭の評価については、おおむね好評であったと思われる。ほぼコロナ禍以前に戻って実施することができたが、生徒から要望の出ている期間中のスマホの全面許可など、検討・改善の余地があることは年度中に総括を行い、来年度に向けて生徒に課題を投げかけ、できるだけ生徒主体で取り組みができるように指導していきたい。 新制服の運用については、1年が経過して、成果と課題が見えてきた。大きな問題点はなく、生徒にも好評であるが、着こなしの指導、オプションの追加検討などを重点的に行ってゆきたい。 	A	
	進路指導課	<ul style="list-style-type: none"> 個々の進路実現に向けて、様々な活動に自走できるよう、情報や機会の提供を面談・研修会などで進めていく。 新しい入試制度に対して、最新の情報収集と情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 面接週間時の内容ポイントを学年団で共有し、共通理解を図りながら充実した面談が出来るようにする。 3年生はひたぶるタイム等の成果を踏まえ、個人の進路選択について視野の拡大・深化をはかり、個の学びに4月当初の早い時期から繋げていく。 進路検討会等の機会を利用して、教員研修の時間を学期に1回以上持つ。 学校改善アンケート(生徒)における進路情報提供に関する満足度を昨年度(87%)より高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談時の内容などについて各年次毎、各学期で共有が図られた。 1学期に外部講師による座談会などを行い、個に応じた進路学習をすすめた。 第1回進路検討会で令和4年度卒業生の進路状況と昨今の入試事情の研修講座を実施した。 進路意識の向上が生徒自身に認識させることが出来る具体的な工夫を検討したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 面談時の内容などについて、学年で共有が図られた。しかし、生徒の学校改善アンケートにおける面談についての満足度が84%と前年度から3%減であった。 3年次の個人の進路選択について、面談等により4月当初の早い時期から繋げていく事が出来た。 学校改善アンケート(生徒)における進路情報提供に関する満足度は昨年度より5%減の82%であった。各年次の通信や進路LHRなどで充実を図っていく。 年間を通じて、外部講師による座談会を19講座実施し、多数の生徒の参加を得た。 第2回進路検討会で今年度の入試の動向と新課程入試の情報共有を研修として実施した。 新教育課程の情報に関する共通テストに関する情報の収集と共有を進めた。 	B	A
厚生課	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会や環境・防災委員会の活動を行う。 生徒自らが、健康や防災に関心を持ち、様々な体験を通して学んでいく姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種委員会がそれぞれの立場で、健康や防災について各種研修会などに参加し、機会があればその成果を発表したい。 歯科治療率などを向上させていく。 性教育や性の多様性などについてのLHRを計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会、環境・防災委員会は各方面で活動ができています。 歯科治療率向上をめざして、引き続き生徒に促していく。 健康LHRは無事終了した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会、環境・防災委員会は年間を通じて校内での活動を滞りなく行っていた。保健委員会は学校安全保健委員会での発表も行っている。 校内歯科治療率は43.6%(県平均32.7%)であったが、次年度は更に向上させ、生徒自ら、健康管理を行えるようにしたい。 健康LHRは『恋愛とデートDV』をテーマに性の多様性を含めて学んだ。よりよくなるよう 	A		

					とする力を育む一助とできたと思う。	
1 年 次	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や学校行事に主体的に参加させる。 探究活動を通して社会に目を向け、進路意識を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の振り返りシートによる調査「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が70%以上になることを目指す。 学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価が70%以上になることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の振り返りシートによる調査で、肯定的回答は、77.7%であった。 2学期以降の行事にもこのまま主体的に取り組めるよう促したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の振り返りシートによる調査で、肯定的回答は、90.8%であった。 学校改善アンケートで、肯定的回答は、88%（全学年）であった。 次年度は、学校の中核として、各行事に主体的に取り組めるよう促したい。 	A
2 年 次	<ul style="list-style-type: none"> 大いに学び、大いに楽しめるよう部活動、学校行事に全力で取り組ませる。自分の意見をもち、自ら動くことができるように支援する。 探究活動を通して、人やものつながり、知的探究心をきわめて苦手なことにも挑戦するように指導し、進路意識を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の振り返りシートによる調査「学校行事に全力で取り組むことができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が増加することを目指す。（1年3学期81.9%） 学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価が80%以上を維持する。（1年時84%） 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の振り返りシートによる調査で、該当の質問項目において肯定的回答をした生徒は87.4%で、1年3学期の81.9%よりも上回る結果となった。中心学年としての意識をもって積極的に行事に取り組んでいると言える。 真夏のセト☆フェスの発表や瀬戸高祭において、リーダーを中心として役割分担し、メンバーと協力して取り組む姿が見られた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価をした生徒は88%（全学年）であった。また、2学期の振り返りシートによる調査で、該当の質問項目において肯定的回答をした生徒は87.6%で、1学期同様に高い数値となった。どちらの調査でも前回や前年度を上回る結果となっており、修学旅行やクリスマスのセト☆フェス等、大いに楽しみ、大いに学ぶことができたと考えられる。3年になっても、学校行事や探究活動に全力で取り組んでほしい。 12月の懇談は三者懇談として実施した。生徒・保護者の進路希望を把握し、年内入試も含めて卒業後の進路や試験について意識付けすることができた。年度末には、8割以上の生徒が自分の志望する学問分野を決定して、その目標に向けて具体的な行動を起こすことができるように、進路探究のLHRや面談等を計画・実施していく。 	B
3 年 次	<ul style="list-style-type: none"> 2年次までに習得・応用してきた服装や言葉遣い、ルール・締切の遵守、メモの活用等を、よりよくなるよう探究させる。 情熱を持って文武両道を目指し、諸活動に主体的かつ工夫をこらして参加させる。 楽しむときは大いに楽しみ、学ぶときは大いに学ぶ、メリハリのある学校生活を積極的に送らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎の振り返りシートによる調査「2年次までに習得・応用してきた服装や言葉遣い、ルール・締切の遵守、メモの活用等を様々な場面で探究できましたか。」「情熱を持って文武両道を目指し、諸活動に主体的かつ工夫をこらして参加できましたか。」「楽しむときは大いに楽しみ、学ぶときは大いに学ぶ、メリハリのある学校生活を積極的に送ることができましたか。」において、肯定的回答が85%以上になることを目指す。 学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価が85%以上になることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期振り返りシート「2年次までに習得・応用してきた服装や言葉遣い、ルール・締切の遵守、メモの活用等を様々な場面で探究できましたか。」肯定的回答96% 「情熱を持って文武両道を目指し、諸活動に主体的かつ工夫をこらして参加できましたか。」肯定的回答95% 「楽しむときは大いに楽しみ、学ぶときは大いに学ぶ、メリハリのある学校生活を積極的に送ることができましたか。」肯定的回答97% 瀬戸高祭に主体的かつ工夫をこらして取り組むことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 2学期振り返りシート「2年次までに習得・応用してきた服装や言葉遣い、ルール・締切の遵守、メモの活用等を様々な場面で探究できましたか。」肯定的回答98% 「情熱を持って文武両道を目指し、諸活動に主体的かつ工夫をこらして参加できましたか。」肯定的回答96% 「楽しむときは大いに楽しみ、学ぶときは大いに学ぶ、メリハリのある学校生活を積極的に送ることができましたか。」肯定的回答96% 3年次生として諸活動に主体的かつ工夫をこらして取り組むことができた。 	A

学校経営目標	担当	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況	評価	最終達成状況	評価	総合
③主体的に他者と関わり、健全で良好な人間関係を築き、その関係を基にした実践的なコミュニケーション能力の育成を行う。 (健康)	教務課	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアや外部交流につながる情報提供を随時行い、生徒が学校外とつながる機会を設ける。また多様な人々と積極的に交わる意識の高揚を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や総合的な探究の時間、ボランティア活動等で自ら学校外の人々と係わる機会を1人2回/年以上持つ。 学校改善アンケート(生徒対象)の「社会貢献活動(ボランティア活動)に積極的に取り組んでいますか」の質問項目において肯定的評価が70%以上(前年度62%)になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中の社会貢献活動(1年次)には、のべ9カ所に104名の生徒が参加した。 P T Aとの共催による校外清掃ボランティア(8/19)に40名の生徒(1～3年次)が参加した。 数少ない機会を利用して有意義な外部交流活動ができています。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 冬季休業中の社会貢献活動や中学校との生徒会・部活動等を通じての交流等で、学校外の人々と係わる機会が2回/年以上持っている。 学校改善アンケートの「社会貢献活動(ボランティア活動)に積極的に取り組んでいますか」の肯定的評価は61%であった。 	A	
	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶運動や日常生活の中で、気持ちの良い挨拶ができるようになる。 制服を正しく着こなし、基本的な生活習慣(遅刻をしないなど)が確立できるようにする。 生徒が交通ルールを遵守するように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校改善アンケート結果で、昨年度数値を上回ることを目指す。(生徒79%、保護者50%、教員71%)この2年、アンケートの保護者記述回答では、瀬戸高生はあいさつができる、できない、の両方の意見があるので、肯定的な意見を増やしたい。 教員の挨拶・指導、生徒会、風紀交通委員による挨拶運動の中で適宜注意を促す。 学期に2回程度、下校指導(1週間)を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート実施はこれからだが、挨拶ができる生徒が比較的多いように思われる。ただ、教員側から挨拶をすると挨拶できる生徒は多いが、自分から主体的に挨拶できる生徒は、まだ少ないと思われる。 女子のスカート丈や髪飾りなどの違反がやや目立つように思われる。機会を捉えて指導をしていきたい。 交通関係では、外部からの苦情が1件あった。山根交差点での自転車の通学状況が悪い、ということであった。SHRで注意喚起を行い、生徒課で数日立ち番を行い、改善を図ることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶については、昨年度比で大きな増減はなかった(生徒75%、保護者49%、教員74%)が、生徒・保護者が微減なのにに対して、教員は微増で、意識の違いがやや気になる。生徒の多くは挨拶が出来ていると思うが、出来ない生徒がいると、印象に残りやすいのかもしれない。挨拶運動などを通して、生徒が自発的に挨拶できるような機会を増やしてゆきたい。 服装規定を守れない生徒の割合がやや増えたように感じる。新制服導入を契機として、今年度できなかった「制服の適切な着こなし」について、啓発の機会を設けたい。 昨年度から立番指導の中に、学期に2回の割合で下校指導を組み入れている。また、外部からの苦情に対しては、生徒課で立ち番対応を実施した。いずれも、交通安全の注意喚起という点で、一定の効果はあったと思う。来年度も、継続して実施したい。 	B	
	進路指導課	<ul style="list-style-type: none"> ひたぶるタイムがより協同的な取組となるように工夫し、クラス・学年、さらには学校外の人々と関わる機会をできるだけ多く設ける。 ひたぶるタイムの活動を生徒自らの「キャリア・デザイン」の形成に繋げ、社会の一構成員としての自覚を持って行動できる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年生は、学年を越えてまたは学年全体・クラス全体での発表の機会を年2回は設ける。 1年生は外部講師を招いての講演会を学期に2回開催する。 2年生は、セト☆ラボの活動を通じて見出した研究課題をフィールドワーク等で深め、自身のキャリア・デザインの形成に効果的に結びつけていく。 キャリア・パスポート活用を意識する。 学校改善アンケート(生徒)における総合的な探究の時間への積極度を昨年度(90%)より高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月に真夏のセト☆フェスで発表の機会を設けた。 1学期に伝える力受けとる力つなげる力講演会、地域の方を困む会を設け、外部講師による学びの深化をはかった。 キャリア・パスポートを発展的に解消した「学びの年表」「ひたぶるノート」の利用を進めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 12月にクリスマスのセト☆フェスを実施し、生徒の発表の機会を設けた。 全学年において探究の学びを積極的に「学びの年表」や「ひたぶるノート」に記録することができた。 1年次には岡山大学とSDGsの講演を設けた。 3年次は3年間の「ひたぶるノート」の蓄積を基に、志願理由書などの作成を通して、自らの進路について研鑽を深めた。 学校改善アンケート(生徒)における総探への積極度が昨年度と同じ90%で目標の数値が得られた。 	A	
厚生課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な判断や安全意識の育成を図る。 救急法講習会の実施(進路選択の一助) 悩みのある生徒・保護者への教育相談の充実を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を実施し、生徒自らが判断し危険を回避する能力を育てる。職員にも予測不能な災害に対応できる能力を積んでもらう。 希望者に対して、救急法講習会を実施し、学んだことを自分の人生に生かせるようにする。 外部の専門家(スクールワーカー)などの活用と連携を持ち、生徒や保護者の内面的なケアに努める。 「保健便り」「健康通信」を通して、健康 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は地震を想定したものを9月末に実施し、昨年度とは内容を少し変えて教室内で机下で体を保護する形とした。生徒・職員の避難態度等は概ね良好だったが、安否確認や連絡方法について改善点もいくつか挙げられた。 救急法の講習会には15名の生徒が参加した。集中して3日間の講習を受けた。その後受講者の中から、人命救助をした生徒が現れたことは喜ばしい。日本赤十字社特別表彰を受けることになった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は、安否確認を、細かい部分まで丁寧に、連絡方法は、現場状況に応じて、臨機応変に対応することが次年度への改善点である。 保健室利用も多くあった。担任や教育相談、SSW、特別支援サポーターと連携し、対応を行った。次年度は特別支援の観点をも更に強化し、生徒のコミュニケーション能力の育成を含めた支援を継続したい。 保健便りは瀬戸高生徒用ポータルを用い、ミニ情報を頻回数提供する形も取り入れ 	A		

		維持の啓発に努める。	・外部の専門家と連携し、生徒や保護者のケアに努めている。	た。ペーパーレス化も含め、発展したと言える。
1 年 次	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の大切さを認識させ、進んで挨拶をするよう指導する。 ・相手の立場に立ち、思いやる気持ちを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎の振り返りシートによる調査「自分から気持ちのこもった挨拶をすることができましたか。」「感謝の気持ちを言葉にすることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が70%以上になることを目指す。 ・学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的にあいさつをしていますか。」「学校で先生や他の生徒を1人の人間として尊重していますか。」の質問項目において肯定的評価が70%以上なることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の振り返りシートによる調査で、「挨拶」の肯定的回答は、77.7%であった。 ・1学期の振り返りシートによる調査で、「感謝」の肯定的回答は、95.9%であった。 ・2学期以降も、挨拶や思いやりの心の大切さを指導していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の振り返りシートによる調査で、「挨拶」の肯定的回答は、87.6%であった。 ・2学期の振り返りシートによる調査で、「感謝」の肯定的回答は、93.4%であった。 ・次年度以降も、挨拶や思いやりの心を大切にしていきたい。 ・学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的にあいさつをしていますか。」「学校で先生や他の生徒を1人の人間として尊重していますか。」の質問項目において肯定的評価がそれぞれ75%、96%（全学年）であった。
2 年 次	<ul style="list-style-type: none"> ・自分からすすんで、気持ちのよい挨拶をし、感謝や謝罪の気持ちを言葉にして相手に伝えるように指導する。 ・コミュニケーションを大切に、相手も自分も尊重するよう、機会あるたびに伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎の振り返りシートによる調査「自分からすすんで、気持ちのよい挨拶をすることができましたか」の質問項目において、肯定的回答が増加することを目指す。（1年3学期 85.1%） ・学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的に挨拶をしていますか。」の質問項目において肯定的評価が80%以上を目指す。（1年時 74%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の振り返りシートによる調査で、該当の質問項目において肯定的回答をした生徒は76.3%であったが、「お互いを尊重し、コミュニケーションを大切にすることができましたか。」の質問項目においては肯定的回答が93.3%となった。挨拶については意識がやや低くなっているものの対話を大切にしようとする姿勢が見られる。 ・いま一度、SHRや授業など、開始や終了の挨拶がきちんとできるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の振り返りシートによる調査で、該当の質問項目において肯定的回答をした生徒は78.1%であり、1学期の76.3%を上回ったものの、1年3学期85.1%を下回る結果になった。また、学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的に挨拶をしていますか。」の質問項目において肯定的評価をした生徒は75%（全学年）であり、どちらの調査においても今年度の達成基準を満たすことはできなかった。しかし、「お互いを尊重し、コミュニケーションを大切にすることができましたか。」の質問項目においては肯定的回答が94.9%となり、前回の93.3%を更新した。授業中の話し合いなどは活発におこなっており、お互いの考えを尊重しながらコミュニケーションをとれている様子が見られる。 ・卒業後、社会に出たときに困らないように、SHRや授業など、開始や終了の挨拶がきちんとできるように全教職員で指導を続けていく。成人になり、社会に出ていく自覚をもてるように適宜指導をおこなってきたい。
3 年 次	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのこもった挨拶をさせる。 ・先生や友人との対話を大切にさせる。 ・みんな違って、みんないい。互いを認め合い、尊重し、励まし合いながら進路実現に向けて自走させ、全員笑って卒業させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎の振り返りシートによる調査「気持ちのこもった挨拶ができましたか。」「先生や友人との対話を大切にすることができましたか。」「みんな違って、みんないい。互いを認め合い、尊重し、励まし合うことができましたか。」において、肯定的回答が85%以上になることを目指す。 ・学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的にあいさつをしていますか。」「学校で先生や他の生徒を1人の人間として尊重していますか。」の質問項目において肯定的評価が85%以上なることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期振り返りシート「気持ちのこもった挨拶ができましたか。」肯定的回答96% 「先生や友人との対話を大切にすることができましたか。」肯定的回答96% 「みんな違って、みんないい。互いを認め合い、尊重し、励まし合うことができましたか。」肯定的回答99% ・生徒個々の問題に対して、クラス担任を中心に、年次団全体で対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期振り返りシート「気持ちのこもった挨拶ができましたか。」肯定的回答97% 「先生や友人との対話を大切にすることができましたか。」肯定的回答99% 「みんな違って、みんないい。互いを認め合い、尊重し、励まし合うことができましたか。」肯定的回答100% ・年次団全体で情報を共有しながら指導することができた。

いじめ対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育室、教育相談室などと連携をはかり、いじめの早期発見に努める。また人権教育講演会などを通して、人権・いじめに対する問題意識を高める。スタンドバイの活用と、各学期アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタンドバイや各学期のアンケート結果のもとに、早期発見・解決に努め、いじめのない学校づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタンドバイへの相談は、8月に1件あったが、夏休みの宿題に関係するものであった。各学年の1学期振り返りアンケートでは、いじめをうかがわせるような記述は見当たらなかったが、生徒の心情、人間関係は日々変化するので、今後も注意深く見守っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS上での、いじめに相当すると考えられる事案が1件発生した。精神的に幼い生徒が増える一方で、良くも悪くも人間関係に想像以上の多大な影響を与えてしまう端末機器を手軽に使用できることによって、さまざまなトラブルが生じていると思われる。今後も、生徒の些細な変化を見逃さず、信頼関係の構築に努め、学年団、関係部署と連絡を密にして、いじめの早期発見、早期対応に努めたい。 ・スタンドバイについては、2学期以降、相談はなかったが、設置の趣旨に鑑みて、継続的に取り組みたい。 	B
----------	---	---	---	---	---

学校経営目標	担当	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況	評価	最終達成状況	評価	総合
④ 郷土・地域の将来を考え、周囲と連携しながら行動する力と社会変革の担い手としてイノベーションを起こし、エージェンシーを発揮する力の育成を図る。 (協調)	教務課	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール、学校説明会、ホームページ等の広報活動を充実させ、瀬戸高校の魅力発信を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新数(70回)・アクセス数(1日平均117回)を前年度以上にする。 ・入学者選抜において定員充足となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ(ブログ)更新数27回、アクセス数1日平均114回、中学校訪問34校(8月25日現在)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ(ブログ)更新数43回、アクセス数1日平均76回(1月18日現在。R4.12.7以降アクセス数のカウント方法変更あり)。 	B	
	厚生課	<ul style="list-style-type: none"> ・救急法や防災に関する校外ボランティア活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸町江西学区の防災キャンプや、県教委が主催する防災関連の行事に生徒が参加し、救急法や防災に関する学習内容を伝える。また、教員も関係する研修会に積極的に参加していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の江西学区防災キャンプには、1年次生1名が、事前の防災に関する意見募集・発表の作文を応募しており、当日も参加予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に江西学区防災キャンプに1年次生1名が意見発表作文を披露したが、今年度は総合的な探究の時間でも防災をテーマにするチームはなかったことから、まずは、生徒への防災の意識付け、更には、ボランティア等を通じた周囲との関わりの中で、地域の将来を担う意識を醸成したい。 	A	
	全年次	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型学習を推進することで、自分の頭で考え、自分の言葉で語り、自分の意志で行動できる生徒の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで総合的な探究の時間を中心に行っている、各自(グループ)で問いを立てて、解決のために行動し、知り得たことや思考を外化するというプロセスを、一層推進するとともに教科学習や特別活動等へも生かし、生徒自身が成長を自覚できるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・真夏のセト☆フェスは、今年は中学生とその保護者合わせて25名の参加が得られ、評価者からの助言も含めて貴重な発表機会となった。 ・探究の一環で校外へ協力依頼する際に趣旨や見通しを十分指導・確認できている。 ・近隣中での生徒発表や探究メンターを行う機会が複数あり、有意義な活動となった。 ・秋以降発表や校外活動の機会が増えるが、生徒へのサポートや教員間の連携を充実させたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の価値観や興味関心に応じて設定した問いに対して、質の高い行動・思考を積み重ねた。また、クリスマスのセト☆フェスでは、約20名の関係者と瀬戸中学校1年生全員に来校いただいて視聴してもらうことができ、生徒の成長の機会となった。 ・中学校との探究学習等に関する連携は、双方生徒の成長機会として非常に効果的な活動であり。今後も持続・発展させたい。 	A	A
教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりの仕事・生活両面の充実を図り、安心して業務を担い、学び合い、協働しながら教育活動の改善や向上に努め、生徒の成長を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校等時間が恒常的に多くなることを避け、限られた時間・労力の中で業務を遂行できるような意識変革と業務整理を推進する。 ・各業務の進め方や意義、見直しなどについて共通理解を持って協働的に進めることができるよう、職員間の対話や同僚性を大切にす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミライムは、時間外勤務平均時間や45h超の人数は昨年度同時期よりいずれも減少しており、全体的には時間を意識した働き方の雰囲気が高まっている。 一方で、80h超の教員が数名おり、特定の教員について業務軽減のための工夫が必要である。 ・瀬戸高教師フィロソフィーについて、会議や研修などの機会を捉えて話題となり、学校運営の基軸として意識されてきている。今後も一層の浸透を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、時間外勤務平均時間や45h超の人数は明らかに減少しており、勤務時間を意識した働き方の雰囲気が醸成されつつある。休日の部活動等による時間的負担などが分散できるよう改善していききたい。 ・ストレスチェック結果では「心身の健康面」や「仕事面」の各要素のデータが大幅に向上しており、職員全体で心理的安全性のある職場づくりを推進できている。 ・新たな挑戦や改善に取り組み動きも徐々に活発化しており、大切にしていきたい。 	A		